

退職のご挨拶



生物資源科学科 土壌学研究室
平井 英明

宇都宮大学に赴任をして31年6ヶ月間農学部にて在籍させていただきました。2025年3月に定年を迎えることができました。これは、ひとえに教職員の皆様方のサポートの賜物であると、心より深く御礼申し上げます。加えて、栃木の文化・自然環境を育み支え続けている土壌は、私自身を支え続けてくださいました。その土壌から学んだ事柄を紹介し、感謝の気持ちを表したいと思います。

私たちが生活している足元の地面の下には、表土と下層土が存在しています。地表面に近い土層では、自然の落葉や落枝が地表面に堆積し、それを土壌の生物や微生物の共同作業による分解が起こるとともに、土壌有機物の生成が起こります。すると、水はけと水持ちという、相反する性質を有する土壌団粒という形態を有する表土が生成し、養水分を吸収する細根の伸長が可能になります。その機能は、動植物に養水分を絶え間なく与えるとともに、様々な物質をろ過・浄化し、清浄な水を供給し、地球上のあらゆる生命を支え育んでいるかけがえのない存在です。私の在職中「湧水」という言葉を聞いたことがありませんでした。これは、火山の噴火により堆積し風化生成した粘土鉱物を含む下層土が深く続くからなのだと密かに考えています。この表土と下層土に支えられ、主として農学部附属農場におきまして水稻栽培と水田土壌、雑木林下に生成する土壌団粒を活用した水稻育苗を題材としまして、大学生や大学院生とともに多様な研究・社会貢献活動に取り組ませていただきました。

「壤」という漢字は、「土」偏（へん）に「襄」と記しますが、自然に生成する「土」を、人が手塩にかけて育てる「襄」を旁（つくり）として、成立していることを知りました。さらに、社会の中で接する人々は、隔てなく常に手塩にかけて大切に育てる土台となってくれている土壌があるからだと気付くようになりました。このようなかけがえのない大切な学びへの感謝をベースに今後も生活するとともに、世界でも有数の土壌を基盤とする宇都宮大学のさらなる発展と学生・教職員の皆様方のご健康を心より深く祈念しています。

退職のご挨拶



農業経済学科 農業経営学研究室
斎藤 潔

私は自動車というものを持ったことがない。そもそも免許がないのだから、車は不要物であった。若いときには免許を取る意思も時間もあつたが、金がなかった。というより、金があつたら本を買って、車のような贅沢品には目もくれなかった。当時の大学生に私と同じような者はわんさかいた。しかし、いま思うと、それらの人は東北・北海道出身の“田舎者”であつたように思う。東京や大阪など都会育ちの若者にとって、車は必需品であつた。あるいは女性を誘うときのキラーアイテムであつた。

私は自動車も免許も縁のない生活をしてきた、と書いておいて、白状しなければならぬが、実は私にも自動車を持ち、免許を持った期間が1年間だけある。1年間ということで察してくださる方もいるだろうが、これは私が客員教授としてアメリカのアイオワ州立大学に赴任していたときに取得した免許であり、友人から譲っていただいたボロ車であつた。やはり、アメリカで農業現地調査を行うには車は必需品であつた。運転経験ゼロの私がどのようにして免許を取得したのかは、ここには書ききれないから飛ばして、参考のため免許取得価額を書いておこう。学科試験6ドル、実地試験14ドルの20ドルであつた。なぜ、こんなに安いのか？そして、免許は試験を受けた当日にくれる。なぜ、こんなにスピーディなのか？それが私が見て、経験して、学んだアメリカ社会のリアルな姿の一例であつた。それは本を読むのでは決して得られないリアリティに基づいたアメリカの実相であつた。それが25年という四半世紀を宇都宮大学で過ごした私の研究スタイルである。

ちなみに私は2019年に脳出血を発症し、その後遺症で重度の身体障がい者になり、車いす生活を余儀なくされている。通勤にも支障があるため、宇大は私のためにテレワーク制度を新設してくれた。私はテレワークによる授業・演習と会議でなんとか退職年齢まで大学生活を継続することができた。農業経済学科の教職員はじめ、農学部関係者の皆様に厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

退職のご挨拶



附属農場 作物生産技術学研究室

高橋 行継

宇都宮大学には2008年4月の着任以来、17年間お世話になりました。毎年退職される先生方の多くが40年前後の在職であることを考えれば、その半分にも満たないような期間でしたが、大学教員でなければできない数々の貴重な経験をさせていただきました。所属学会の諸委員会の委員や農林水産祭、国家公務員試験、普及指導員資格試験の専門委員などは、大学教員であったからこそで就くことができた業務でしょう。

私の前職は群馬県職員で、農業試験場と普及指導機関にそれぞれ10年と8年、最後の1年は職員労働組合の離籍専従役員として過ごしました。専門分野であった水稻に関する試験研究業務をずっと続けることは県の人事、組織体

制からみて難しいと感じ、県在職中に農工大学連合大学院に2003年10月社会人入学(宇都宮大学配置)をして2006年9月に学位を取得、当時在籍しておられた吉田智彦先生のご尽力もあって本学に来ることができました。

大学ではもっと自由に研究ができるかと思いましたが、教育、学内運営、社会貢献との兼ね合いで想像していたようにはできず、2010年に品種登録をした水稻品種「ゆうだい21」の普及業務にもかなり振り回されました。ただし、「自分自身その柄ではない」と思っていた教育に関しては、たくさんの新たな気づきがありました。研究室等で指導をした多くの学生たちが社会に出て、公務や教育をはじめ各分野で活躍してくれていることは実に頼もしい限りです。講義教材の作成やレポート評価、期末試験、試験後のフォローなど一貫して丁寧に行うことを心がけ、ベストレクチャーも専門科目と基盤教育科目で1科目ずつ受賞することができました。管弦楽団顧問も8年間任せ、これらすべて大学教員ならではの経験であったと感謝しています。附属農場での教育・研究活動も、共同利用拠点等を通じて農場がまさしく脂が乗り切った時期に在職でき、多忙ながらも皆様方からのご支援の中で充実していたと感じております。

末筆になりましたが、本学の益々のご発展を祈念して退職のご挨拶といたします。

新入生歓迎会



(生物資源科学科)



(応用生命化学科)



(農業環境工学科)



(農業経済学科)



(森林科学科)

令和7年度入学の学生を対象に新入生歓迎会を行いました。今年も学科ごとに行われ、新入生と教員および先輩との交流の場として楽しいひと時を過ごしました。

学 科	実 施 日	内 容
生物資源科学科	2025年4月4日	大学生協での会食
応用生命化学科	2025年4月14日	農学部棟大会議室での会食
農業環境工学科	2025年4月11日	大学生協での会食
農業経済学科	2025年4月22日	大学生協での会食
森 林 科 学 科	2025年4月7日	演習林での昼食会